若手研究会

Young Researchers Association of the Japan Health Physics Society

ウェブページ | http://www.jhps.or.jp/wakate/wakate.html
Facebook | https://www.facebook.com/wakate.jhps/

Web FB

日本保健物理学会
JAPAN HEALTH PHYSICS SOCIETY

1. 日本保健物理学会 若手研究会について

①若手研究会とは

・日本保健物理学会若手研究会（通称：若手研）は1987年に設立され、1988年に正式に学会に承認されました。 今年で創立30周年を迎えます。

・日本保健物理学会若手研究会は、日本保健物理学会に所属する36歳未満の若手メンバーで構成されています。メンバーは、環境放射能や放射線防護等に専門とする研究者や技術者の集まりです。
・現在、若手研究会の会員数は約40名です。
・若手研究会の体制は会長1名、幹事2名が中心となって、若手研究会の活動を企画・運営しています。平成29年7月からは以下の体制で若手研究会の活動を行います。

・会長　片岡 憲昭　（地独）東京都立産業技術研究センター
・副会長　上野 智史　（株）　千代田テクノル
・副会長　中嶌 純也　（国研）日本原子力研究開発機構

♪興味があればこちらまで♪
片岡 憲昭
kataoka.noriaki
@iri-tokyo.jp

②若手研究会の活動目的

1）若手勉強会などを年に1回開催し、若手研究会メンバー間の交流・若手研メンバーのレベルアップ・意識向上を図ること。
⇒勉強会で議論した内容や成果は、毎年日本保健物理学会研究発表会若手セッションなどで発表しています。

2）若手研究会メーリングリストを通し、若手研究会メンバー間の定期的な情報交換を行うこと。

3）海外の放射線防護等を専門とする若手団体との情報交流をさらに活発にすること。

☆若手研究会では、異なる組織に所属する、同世代の放射線防護等を専門とする若手が、各自の研究や業務等の定期的な情報交換を通して、互いを刺激し合い、高め合う同士として、一緒に楽しみながらこれからも活動を展開していきたいと思っています。

2. 若手研究会の活動紹介

①放射線防護や線量評価に関する議論と成果発表

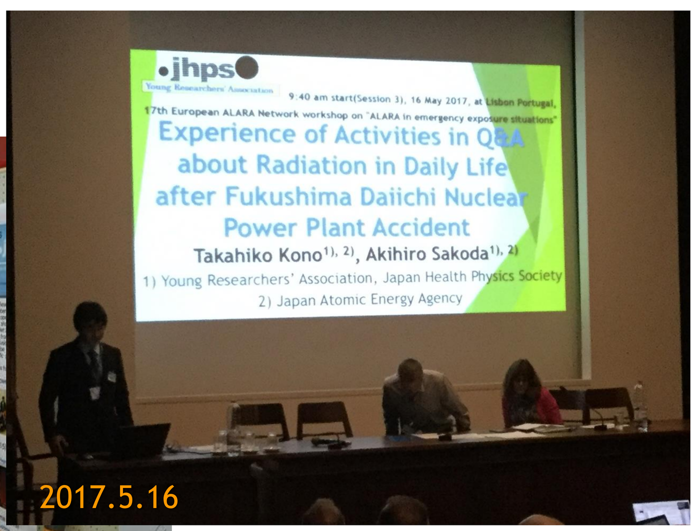
勉強会 (2011～2017年の抜粋)	
2011/02/22	環境安全と放射線安全の包括的な理解を深めるために
2011/10/19	専門家が答える暮らしの放射線Q&Aサイト
2011/12/15	いま学友会に伝えたいこと～私たちが保健物理を選んだ理由～
2011/12/20	福島事故後の放射線健康リスクに関する情報発信
2012/02/15	暮らしの放射線Q&Aの最適な回答内容について考える
2012/03/01	福島県伊達市における除染現場の見学および仁志田市長との意見交換
2014/03/20	浜岡原子力発電所と静岡県環境放射線監視センターの見学
2014/06/06	これからの若手研究会と学友会の活動について考える
2014/09/12	第47回研究発表会若手研究会・学友会共同特別セッションに向けて
2014/11/12	東京電力福島第一原子力発電所の見学
2014/12/06	小佐古教授と共に放射線防護を語る！放射線防護とは何か－私のたどり着いた地平－
2015/06/07	緊急時作業における放射線防護を議論する
2015/12/19	放射線防護の今後のあるべき姿について考える
2016/07/02	帰還の線量基準を考える
2016/12/08-09	東京電力福島第一原子力発電所の見学など

その他活動	
2010年、2012年、2013年、2014年、2015年	科学技術カフェ、千葉市科学フェスタ　ブース出展
2012年	The 13th International Congress of the International Radiation Protection Association (IRPA)　暮らしの放射線Q&Aについて発表
2015/5/30-31	国際シンポジウム「福島の復興に向けての放射線対策に対するこれからの課題」　サイエンスカフェでポスター発表
2017/5/15-17	17th European ALARA Network workshop on “ALARA in emergency exposure situations”　暮らしの放射線Q&Aについて発表（招待講演）

②暮らしの放射線Q&Aの回答作成(2011年～2012年)

一般市民からの放射線に関する質問や不安に答えるため、2011年3月25日に保健物理学会有志の会が立ち上げた「暮らしの放射線Q&A」を2011年7月20日から2014年まで若手研が中心となり約40名で活動しました。日本国内でも反響があり、2012年の5月にはtwitterのフォロワー数が5000人を超えました。

③Q&A活動の国際発表！！



これまでの暮らしの放射線Q&A活動を通して得られた成果や、回答者としての想いを国際会議等の場で発表してきました。
このような積極的な活動が実を結び European ALARA Network workshopから招待講演を受け、欧州を中心とした研究者に向けてこれまでの成果を発表することができました。
本講演と質疑応答を通じて、本活動に対して世界中の多くの研究者が大きな関心を抱いていることが分かり、とても良い交流を図ることができました。

④福島第一原子力発電所の見学

原発事故後初の1F見学でした。
現場で起こった貴重な経験をもとに、放射線防護の専門家として、それぞれ活動しています。

日本原子力学会YGNとの共催で1Fサイトの見学と勉強会を開催しました！8日には、一般社団法人AFWの吉川彰浩様を講師にお招きして廃炉講座を講演いただきました。

⑤千葉市科学フェスタでの一般市民向け放射線出前授業

3. 将来の放射線防護に向けて

最近行われたIRPA（International Radiation Protection Association：国際放射線防護学会）の調査によれば、私たち若手研究会のような集まりは世界的にも珍しいです。欧米にいくつかありますが、アジアでは皆無です。
今後、IRPAは、人材の確保・育成などの観点から、放射線防護や保健物理を専門とする若手の国際的なネットワーク構築に向けた活動を開始します。これは、IRPA理事の吉田浩子先生（東北大、保物学会理事）の主導の下に進められます。
将来の放射線防護を約束するために、若手研究会はこれまでの経験を共有するなどして、本活動に積極的に協力していきます。また、今後も引き続き、勉強会やアウトリーチ活動を定期的に行い、自己研鑽や正しい情報発信に努めていきます。

関連学会で若手ネットワークがある国と参加資格	
日本	36 歳未満（学会員の5%ほど）
オーストリア	目安として、 35 歳以下または学会所属 5 年以下（学会員の 10% ほど）
イギリス	専門経験年数 10 年以内（学会員の 10% ほど）
アメリカ	特に無し
フランス	ここ数年は休止状態、現在再始動中
イタリア、ガーナ	今後予定

70th IRPA Executive Council Meeting in Madrid on November 12, 2016.

皆様のご参加、お待ちしています！